

上部尿路上皮癌における SMYD2 の発現と再発、予後との関連性に関する研究

1. 研究の対象

1999 年 1 月～2014 年 5 月に当院で腎盂癌ないし尿管癌に対して腎尿管摘除術が行われた方

2. 研究目的・方法

上部尿路上皮癌（腎盂癌および尿管癌）は、比較的まれな疾患であり全尿路上皮癌の 5% 程度を占めています。画像検査で転移を認めない場合、腎尿管全摘除術（腎臓、尿管を一塊に切除する方法）が標準治療とされています。下部尿路上皮癌（膀胱癌）では 60～80% が表在性腫瘍（筋層に浸潤を認めない癌）であるのに対して、上部尿路上皮癌は診断時に 65% 以上が筋層浸潤性癌であり、腎尿管全摘除を施行した場合、5 年無再発生存率は 69%、5 年癌特異生存率は 73% とする報告もあります。再発予測因子として、臨床 T 分類（局所の深達度）、腫瘍の異型度、リンパ管侵襲、浸潤増殖様式などが有用な因子として報告されていますが、これらの因子のみで再発や予後を予測するにはいまだ限界があります。より正確に再発や予後を予測するバイオマーカーが同定できればより効率的に上部尿路癌の再発を予測でき、それらの患者さんに早期に治療を行うことも可能となる可能性があります。また、患者ごとの至適なフォローアップスケジュールを設定できれば、再発の早期診断につながる可能性もあります。今回我々が検討する SMYD2 は、ヒストンのメチル化により転写を伸長し、p53 を抑制し、細胞増殖に関与する蛋白とされています。頭頸部癌や食道癌においては、SMYD2 の高発現が予後因子であることが報告されておりますが、上部尿路上皮癌ではまだ検討されていないのが現状です。

このような背景があり、防衛医大泌尿器科では、過去に当施設において腎盂癌や尿管癌に対して腎尿管摘除術が行われた手術検体を用い、SMYD2 の発現を免疫組織学的に検討し、それらの発現と患者さんの臨床データ（身体所見、年齢、性別、喫煙歴、血液データ、手術時の病理検査など）や術後の膀胱内再発、遠隔転移、予後などとの関連性を検討したいと考えています。

この研究は防衛医大の倫理委員会承認後から 2018 年 12 月 31 日までを研究期間としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：手術検体のパラフィン包埋切片

情報：病歴（年齢、性別、腫瘍部位、等）、術前の画像所見、病理組織所見（深達度、悪性度、等）、再発の有無、予後 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

埼玉県所沢市並木 3-2 防衛医科大学校泌尿器科学講座

伊藤敬一（研究責任者）

Tel： 04-2995-1511(内線 2351)